

Q 町長退職金見直しは

A 他町村と共同処理・独自見直しは困難

山岸はる美議員

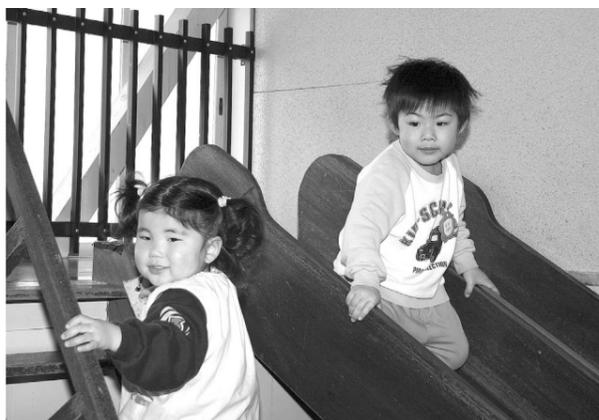
議員 行財政改革について次の3点を伺います。

本町は自主財源に乏しく、地方交付税の削減等から自立の道のは大変厳しいと思われます。行財政改革として、町長の退職金の見直しの考えと、1期勤めての退職金の額を伺います。

町は、将来少人数となる保育園は、児童館化や民間委託を検討する姿勢でしたが、出生数減少の中、町立保育園と私立幼稚園の今後の方向性を伺います。

職員が削減される中、士気の上策を伺います。

町長 公務員の退職手当は、民間企業の退職金に相当し、勤続報償の性格のもので、退職手当の支給は、県内市町村間の均衡、能率的な事務処理や財政面の相互扶助等を考慮し、若手県市町村総合事務組合で共同処理しています。従って、町独自の見直しは難しいと考え



少子化の中で保育園のあり方が問われます

ています。

町内の就学前児童数は、40人前後で緩やかに減少していくと予測していますが、適正規模での運営が難しい施設もあり、今後は児童数の状況を見極めながら、施設の統合や児童館への切り替えを考えています。

私立幼稚園は、学校法人で独自運営なので、行財政改革としての答えは控えますが、町では幼児教育の振興を図るため、私立幼稚園に対し運営補助を行っていきます。少子化に対応した幼稚園と保育園のあり方は、庁内に検討委員会を設けて今後の方向性を探っていきます。

職員の意識改革と資質の向上を図り、健康管理への配慮と公平な人事評価で、士気向上に努めます。

Q 住民の足確保とその後の検討は

議員 私は、17年3月定例会で土

日、祝祭日のバス運行について質問しました。町長は経費のわからない方法を検討すると答弁していますが、その後の検討結果を伺います。

A 相当の経費必要 現段階では困難

町長 土日、祝祭日が連休となっている路線は、葛巻大平橋間と吉ヶ沢末代橋間の2路線です。また、葛巻二戸間の路線は、上下線とも1回のみ運行で、地域住民に不便をかけています。町有バスを活用して、経費をかけない住民の足確保策を関係機関に相談し、指導を得て検討しました。しかし、町有バスの運行は、無償と有償運行の二つの方法がありますが、住民サービスの公平性や運行許可などの課題があります。いずれの場合も、相当の経費が伴い、現段階の運行は困難と考えています。

議員 町の中期財政見直しでは、年4億円以上の歳入不足が見込まれる苦しい財政状況です。そこで、平成18年度の予算編成の所感と、今後の町政のかじとりを伺います。

消費的経費は前年度比5%の減とし、普通建設費を4割増としています。また、補助事業を拡大し、県の支出金は38%の増です。一方、敬老祝金や各種事業の助成金を引き下げ、町民の「痛みを伴う」分野にも取り組みました。また、寄附条例で新たな財源確保に努めます。今後は、国に対し財源確保を強く要請しながら、自らも徹底した行財政改革を推進します。

Q 保育園舎と遊具 老朽化の対策は

議員 老朽化している保育園舎と屋外遊具の安全性を伺います。また、保育料の軽減措置の状況を伺います。

A 破損の都度修理 安全に問題なし

町長 保育園舎と屋外遊具は、老



寄附を集めて森林整備を進めます

Q 町内の建設業の現況と振興策は

朽化していますが、破損した都度修理し、安全点検を念頭に実施しており問題はありません。

Q エコパーク平庭整備事業縮小は

議員 県が進めるエコパーク平庭高原整備事業が6億円の規模に縮小し、本町側は体験学習施設のみとなりました。今後の町の対応を伺います。

A さらなる展開を 県に対して要望

町長 エコパーク平庭高原整備事業は、県の財政状況が厳しいことから事業費が圧縮され、オープン年度も平成19年度に延期されました。町は見直し前の整備を要望しましたが、県の財政事情から難しい状況です。今後は事業の目的である地域の活性化を図るため、さらなる展開を県に対して要望していきます。

Q 予算編成の所感と今後の町政は

A 寄附条例の制定など行革を推進

柴田勇雄議員